

展示場を緑豊かに! ~緑地化計画の取り組み~

大森山動物園では、2026年3月から動物たちの生活環境の向上と園内の景観改善を目的として、多年草牧草や芝による展示場の緑地化に取り組んでいます。

そうした取り組みの中から4つのスポットをピックアップして、その内容と、緑地化後に見られた動物たちの変化についてご紹介します。

緑化スポット

①

サル舎「天空の楽猿」

飼育展示担当（動物専門員） 牛越 利之

サル舎「天空の楽猿」の屋外展示スペースは、水はけが悪く、展示場が冠水してしまうことがありました。排水を改善しようと、土を掘り返したり、芝を植えたりしてきましたが、うまく定着することができませんでした。

屋外展示スペースには日替わりでクロシロエリマキキツネザル、ブラッザグエノンを展示しています。このうちブラッザグエノンは好奇心旺盛な性格で、葉や草などをよく食べます。そこで、展示場に緑を増やすことで、水はけと食事の両面を同時に改善できるのではないかと考えました。

3月上旬から土壌の改良を開始し、耕した土に石灰を混ぜてpH調整を行った上で、堆肥を追加し、6月3日に牧草の種まきを行いました。

種まき後、1週間程度で小さな芽が所々で生えてくるのが確認でき、7月7日には、展示場全体の80%程度が青々とした若芽になりました。

その後、クロシロエリマキキツネザルは牧草の上に寝転び仰向けで日光浴をする様子が、ブラッザグエノンはみず

みずしい牧草を選んで食べたりする行動が見られるようになりました。

また、多少の雨では水たまりもできなくなり、水はけの問題も解消しつつあります。

今後も、この状態を長く維持していきたいと考えています。

展示場でくつろぐ
ブラッザグエノン



サル舎「天空の楽園」外展示場
(緑地化前)



(緑地化後)

緑化スポット

②

カンガルー展示場

飼育展示担当 主席主査 宇佐美 均

オスのカンガルー展示場は土や砂で覆われ、乾燥すると土埃が舞い、雨が降ると水たまりができたり、表土が流されてしまうなど、緑が少ない乾いた環境でした。

そうした課題の解決と飼育環境の改善、景観向上を期待して緑地化に取り組むこととしました。

新たにイネ科の多年草牧草を播種するため、土壌を耕起し、保水性と根が定着しやすい環境を作りました。化学肥料は使用せず、適時の散水と雑草取りで生育を促したところ、1週間程で発芽が見られました。

カンガルーは草を根元まで食してしまうため、新芽が食べられないよう日中は嗜好性の良い「桑の枝葉」を与え、生育への影響と牧草面積の減少を抑制しました。そのほかに、草丈が短い物にもしっかりと日光や水分が行き渡るよう、定期的な草刈などを行い、現在では15cm程度まで成長し、景観も随分と向上しました。

カンガルーも時々新鮮な牧草を食べ、健康維持にも役立っているように感じます。

今年秋にも播種を行う計画であり、緑地化を通じて、動物にもお客さまにも、より良い環境作りに努めたいと思います。



緑地化前のカンガルー展示場



緑地化した展示場での新鮮な牧草を食べるアカカンガルー

リス展示場

飼育展示担当（動物専門員） 奥山 麻裕子

ニホンリスは、本州・四国・九州の森林に生息する動物です。そんなリスたちがより自然に近い環境で過ごせるように芝の播種を行いました。

5月27日、梅雨入り前のタイミングで展示場の土を耕し、堆肥を混ぜてから芝の種をまきました。種は、リスに食べられないよう、土の中にしっかりと混ぜ込みました。

播種後は、芝の生育のために毎日散水を行いました。その際、リスたちが自ら地面に降りてきて水浴びをする様子が見られました。体が小さいリスは体温が下がりがやすいため、ぬれることを常に嫌うと考えていましたが、気温が20度を超える日には気持ちよさそうに水浴びをする姿が観察され、新しい発見となりました。

今回は、展示場ごとに堆肥の量や散水方法を変えて、芝の育ち方の違いも観察しています。今回の結果を活かし、リスたちが快適に過ごせる環境づくりを続けていきたいと考えています。8月時点では、芝がまだ少しずつ育ち始めたばかりですが、緑が広がった際は、その中を元気に駆け回るリスたちの姿を見てみたいです。



リス展示場緑地化前（5月）



芝が生え始めた展示場（8月）



芝の周りを俊敏に駆け回るリス

プレーリードッグ展示場

飼育展示担当（動物専門員） 齊藤 光貴

プレーリードッグは、北アメリカの草原地帯に生息している動物で、巣穴を掘って群れで生活しています。そのため、プレーリードッグ展示場を少しでも生息環境に近づけたいと考え、2025年の秋から展示場の芝生育成計画をスタートさせました。

初めに行ったのが、展示場の土壌改良です。雨の影響で土壌が酸性化していると芝生が上手く育たないため、消石灰を散布し、土壌をアルカリ性に中和しました。芝生の播種を行う1週間前には、有機石灰も散布しました。4月の初旬に芝生の播種作業を行いました。播種を行ってから1か月ほどは芝生の発芽が確認できず、失敗したのではないかと不安に思いましたが、5月中旬から少しずつ発芽し始め、7月下旬には展示場一面に生い茂るほどに育成しました。

8月に入り、芝生の展示場にプレーリードッグを放飼したところ、はじめは目新しい景色に警戒した様子でしたが、すぐに慣れて、芝生の上を駆け回る姿や芝生を食べる姿を見せるようになりました。

芝生を育成したことにより、展示場の景観が良くなっただけでなく、プレーリードッグの動き回っている時間も大幅に増えて、この計画に取り組んでよかったと感じています。



緑地化前に消石灰を散布したプレーリードッグ展示場



緑地化後



芝生を食べるプレーリードッグ

